

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第2回川西市中学校給食検討会議	
事務局 (担当課)		教育振興部学校教育室学務課	
開催日時		平成25年11月14日(木) 午後2時00分～午後3時45分	
開催場所		市役所4階 庁議室	
出席者	委員	濱田啓一、藤原政嘉、山上威、 柏直行、田口進、田中淑子、吉田修司、 芝原久美子、中井成郷、中西真紀	
	その他		
	事務局	泉教育振興部長、森下総務調整室長、上中学校教育室長、 中西学務課長、上原学務課長補佐、大坪学務課副主幹、 馬場学務課主任	
傍聴の可否		可	傍聴者数 14人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		議事 (1) 中学校給食に係る近隣他市町の実施状況 (2) 中学校給食のあり方に関するアンケート調査結果 (3) その他	
会議結果		審議経過のとおり	

審 議 経 過

事務局	<p>開会</p> <p>資料の確認等</p>
座長	<p>議事</p> <p>皆さんこんにちは。次第に添いまして進行したいと思います。2会議内容(1)中学校給食に係る近隣他市町の実施状況について事務局からご報告と説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>～説明～</p> <p>資料1(近隣他市町中学校給食等実施状況)</p> <p>資料2(給食実施方式別のメリット・デメリットの整理)</p>
座長	<p>ありがとうございました。非常にきめ細かく資料を作成していただいております。委員の皆様には何かご意見がございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。読むのに時間がかかるかと思いますが、気が付いたところからお話しいただければと思います。では、現場の先生方から言っていただければと思います。</p>
委員	<p>メリット、デメリットをしっかりと聞かせていただきました。何年先に出来るかということですね。お金をかけて出来るならば、自校方式でということでしょうね。ただ、予算によっては違った形が出来るだろうし、デリバリー方式は以前川西で行いましたが、評価が低かったように思います。センター方式も無理な状態だと思えます。以前私が小学校に勤めている時、耐震化工事の際に親子方式を実際にしていたのですが、調理員は大変でしたが、慎重に事故なく給食を配送していました。近い学校ならば、小学校から中学校にという運び方は良いように思われます。ただ、ここに出てきている方式の中で、私が気になるところは先生の指導の在り方。中学校は初めての給食が入ってくるわけですから、先生はどのように指導されるのか、やると決まったら段階に応じて小学校のノウハウをしっかりと教えてもらいたい。あとはアンケートの結果に出ています。子どもの弁当への気持ち、親の給食への気持ち、中学校教師として子どもの意見も大事にしたいし、親の要望も聞きたいし、今後の検討課題になるかなと思っています。</p>
座長	<p>ありがとうございました。特に何年先を目途にして何をどうやるか、先生の指導をどうするか、親の気持ち、子の気持ち、両方を生かすためにはどうしたらいいか。貴重な意見です。</p>
委員	<p>やっていただけるならば自校方式が良いと思います。小学校で行われていますし、メリットは多大に感じております。デメリットも先生方は良く知っています。川西市は本当に良くやってくれているなど感じます。お金や期間がかかるから親子方式で、という話が出ていますが、親子方式から始めて自校方式へというのはどうでしょうか。給食にすることで、先生の負担、生徒の時間的な負担を考えても、それを上回る食育としてのメリットが必ずあると保護者として思っています。早急に親子方式から始めて、自校方式へというのが希望です。</p>

委員	事務局に確認したいのですが、センター方式だと場所の予定があるのか。また、センター方式を選んだ場合、一斉にするようになるのか。その辺を教えてください。
事務局	センター方式になった場合、一斉開始かということにつきましては、中学校での配膳室の整備も必要になってきますが、自校方式と比べますと一斉で行う可能性は高いと考えています。候補地の話ですが、今具体的に想定している場所はございません。
委員	自校方式についてですが、7中学校で場所があるなど開始の目途がつく学校は何校ぐらいありますか。
事務局	各学校の具体的な状況につきましては、申し訳ありませんが、第3回の時に具体的な資料を示させていただこうかと思っております。学校ごとの生徒数に応じた必要な調理場の面積、かつその面積が確保できるのかというのがひとつ。また、親子方式で行う場合、どこの学校とする可能性があるのかというのをデータで示させていただこうと思います。
座長	具体的なデータは次回にします。親子方式の場合どのような問題が起こるのでしょうか。
委員	親子方式の場合、小学校で作ったものを食べるということですが、栄養的に言いますと、小学生が食べるものと中学生が食べるものを変えるということも出来るかもしれませんが、メニューは同じが良いと思います。ただ、ボリュームは中学生には足りませんから、1品増やすか、全体的に量を増やす必要があると思います。その辺りの事もしっかり考えながら進めていかないと、ただただ小学校で作る食数が増えるだけではないという認識と、どの方式にしても、受け入れ側の中学校の状況を確認しておく必要があります。
座長	ありがとうございました。幼稚園の保護者として何かありませんか。
委員	小学校でも給食が行われていますが、どの程度時間がかかりますか。また、中学校ではどのくらいお昼休みがありますか。
座長	今、給食時間お昼休みの時間について質問がありましたが、実際に小学校では、どのような時間の使い方をしていきますか。
委員	小学校は1単位45分で授業を進めています。給食時間として充てられているのは40～45分です。給食終了、昼休み開始のチャイムはないのでクラスによって昼休みが短くなる場合があります。
座長	中学校ではどれくらいですか。
委員	学校によって多少異なりますが、昼食と昼休みあわせて40～50分です。

座長	そのことについて、昼休みの余裕がなくなるというのは、どういうことですか。
委員	お弁当だと、さっさと食べて遊べます。給食になると、配膳や後片付けの時間がかかります。特に、後片付けが大変です。また、好きなものはたくさん入れたり、嫌いなものは少なくしたり。これは小学校の時からある問題です。
座長	給食を作る側から、親子方式また全体的に考えて何か意見はありませんか。
委員	以前配送をしたことがあるのですが、自分のところの学校と配送する学校両方に、温かいものは温かく冷たいものは冷たく出したいですが、やはり早めに給食を作らないといけないので、調理方法が変わってきます。施設を大きくして同時に出せるのが一番良いですが、今の施設では配送する時は自分の学校を最後に作り、出す側の学校の分を先に作ります。
座長	そうしますと、やはり親子方式では温度調節が難しいということでしょうか。
委員	自校方式に比べると困難ですが、センター方式よりは適温で配膳出来ると思います。
委員	何年前か前、完全米飯実施に向けて施設が足りなくて追加で作りました。それが親子方式で中学校の分を作るとなると、調理室の拡大が必要になると思いますが、可能ですか。
委員	給食室は校舎の一角に設置されている場合や別棟で設置されている場合があり、別棟だとなんとかかなるかもしれません。
事務局	各小学校の給食室の実態はかなり違います。新しく出来たところ、古くからあるところ、さまざまです。中学校の給食を一緒に行うとなりますと、当然調理員の人数も変わってきます。動線の整理や機器の配置を変える、さらには余裕のスペース等も設けていかないと、調理員の安全な作業を確保することが難しい。そういう意味では小手先の改修ということだけではなかなか進まないケースが多いのではないかと我々は思っています。調理員の作業の安全は絶対に確保しなければならない問題であり、そのことが子ども達の食の安全にもつながっていきます。いわゆる民間への委託、あるいはデリバリーというようなものとは違って、自校、親子方式を実施する場合にはそのような配慮が原則として必要です。
座長	ありがとうございました。非常にわかりやすいお話でした。他に意見のある方はいらっしゃいますか。
委員	自校方式の経費の話がありましたが、経常経費の多い少ないは、給食費に影響しますか。
事務局	給食経費の考え方でございますけれど、学校給食法に基づきますと、給食の調理コスト、例えば設置費・設備費をはじめ運営費・人件費・光熱水費、このあたりは設置者である市の負担となります。一方で、食材費につきましては保護者負担という規定がありますので、経常費用が高くな

	<p>るから、保護者の負担が大きくなるということはありません。</p>
委員	<p>これまでにあげていただいたメリット・デメリットの中で、お金の件や施設のこともありましたが、改めて自校調理方式のメリットは多いなと感じています。小学校の耐震工事に伴いまして小学校間でやっていた部分ではやっていけるかなと思いますが、中学校での受け入れ側のノウハウがなく難しいので、受け入れた側の環境の整備、配送の方法などシミュレーションが必要だと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>資料を見せてもらって、メリットが多い方式が良いと思います。結局はどれだったら給食が出来るのか。休息の時間が無くなるという意見もあるが、他市で行われているのに川西市では出来ないということはないと思います。</p>
座長	<p>メリット・デメリットについて、他に意見はないですか。</p>
委員	<p>完全デリバリー方式を実施しているというのは聞いたことがないがそれでよいのでしょうか。デリバリー方式の選択制を実施すると1割程度の申し込みしかなく、食育関係は全く意味がなくなるので、これを選択する意味はない。センター方式も全く設置する場所がないのならこれも対象外となり、親子方式か自校方式かの話し合いをすればいいのではないのでしょうか。デリバリーを全く希望されていないのに話し合う必要はないのではないかと思います。</p>
座長	<p>デリバリーを議論から切り捨てればよいという意見もありましたが、現状こういう方法があるというのはまな板の上のせておかなければと思うが、他に意見がある方はいらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>デリバリー方式につきまして、議論にあげるあげないという意見はあると思いますが、現状といたしまして、例えば大阪府の場合は補助金を出して早期の給食実施という方向で動いています。その中で中学校給食を新たに実施する学校の多くがデリバリーを採択しています。なぜかという、ひとつは初期投資がいらぬ、学校でのさまざまな制約や改築が最小限で済むということです。そういうふうなさまざまな財政的なことも含めた選択肢のひとつとして、非常に広範にデリバリー方式が使われている現実があります。このことを踏まえデリバリー方式を選択肢に含んでいます。一方で試行実施をして評判が良くなかったというのは川西市でも経験していますので、そういうことも含めながら広範にどういうふうになるかということになるかと思っています。この会を持たせていただいた最大の理由というのはさまざまな立場さまざまな方向についていろいろなご意見を頂戴しながら判断をしていくそういう材料をたくさん提供していただきたいというのがございます。メリットが一番多いのは自校方式だから自校方式にしようというのはなかなか難しい部分もありますので、そのあたりも含めてご意見を頂戴できれば、それから「他市でもやっているから川西市でも出来るのではないか。」という意見がありました。私どもの方で、他市で行われている中学校給食の状況をビデオで撮影して参りましたので、どういう状況なのかというのもご覧になりながら具体的な給食室設置その他の課題についてご検討していただく材料にしていきたいと思っています。よ</p>

	ろしくお願いします。
座長	ありがとうございました。なくしてしまうのではなく、あらゆるものを議論の場においてするというのは原則かなと思います。実際、大阪市の場合ではデリバリー方式を行っています。しかし、利用率が悪いのが実情かなと思います。これは、児童は家庭からお弁当を持っていくという期待感が非常に大きいというのがアンケートで出ていました。そのようなことが食育にどのように関係していくかは、これから議論されていくと思います。ですので、デリバリー方式が悪いとかでなく、取り組む際の対策として何が出来て、どうしたら給食が実施出来るかというのを議論していきたいと思います。他にご意見ございますか。
委員	小学校給食費は今いくらですか。
事務局	現在、一食あたり給食費は220円です。
委員	実際に全体を合わせたコストはいくらですか。
事務局	保護者の方に負担して頂いている食材費は220円です。運営費・人件費等を一食あたりに直しますと320円ですので、足すと540円です。
委員	ちなみに、デリバリー方式だと一食あたりいくらで提供していただけますか。
事務局	平成18年～20年度に試行でデリバリー方式の昼食を配食した時は一食400円での販売をしておりました。
委員	支払はどのようにしていましたか。
事務局	直接、生徒から業者に支払っていました。市からの別途委託料は発生しておりません。
座長	デリバリー方式について意見が出ましたが、他に何かご意見はありませんか。なければ、会議内容(1)についてはこれで終わります。ありがとうございました。続いて、会議内容(2)「中学校給食のあり方に関するアンケート調査結果」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	～説明～ 資料3(中学校給食のあり方に関するアンケート調査結果)
座長	ありがとうございました。かなり詳しい綿密な調査ですが、棒グラフのまとめかたが間違っているのでは。母数が違うからパーセントで本来は表すべきではないでしょうか。そうした方がわかりやすかったのではないかと思います。
委員	延べ人数を分母にするのではなく、有効回答数を分母にしてパーセンテージを出していただかな

	いとそれぞれの思いが響いてこないなという気がしたのですが。
事務局	ご指摘いただいた通り、今回は延べ人数を分母にパーセンテージを出しています。有効回答数を分母にし、率を出して再度資料を送らせていただきたいと思います。申し訳ございません。
座長	このようなデータを作っていただきまして、児童が思っていること、生徒が思っていること、それぞれの保護者の皆さんが思っていることがわかってきたのではと思います。 先ほどいくつかありましたように、食育というのを加えて考えていかなければならないと思いますが、このグラフを見て何かご意見がありましたらよろしくをお願いします。
委員	有効回答数について教えていただきたいことがあります。児童と生徒その保護者が90%代と60%代でひらきがありますが、これはなぜでしょうか。この児童生徒はアンケートを自宅に持ち帰って書いたのか、それとも学校で書いたのか。そのあたりをお願いします。
事務局	回答方法につきましては、各学校にお任せしましたので、場合によってはその場で書いて回収し、保護者のアンケートは自宅に持って帰って回答しているかもしれませんが、最終確認はしていません。ちなみに、平成20年度に同じように児童生徒、その保護者にアンケートを取った時の回収率と比較しますと、対象者によっては2～4%と若干下がっていますが、回収率としてはほぼ前回と同様の率となっております。
委員	学校で書かせていたら100%になるはずですが、持って帰って書いている学校もあるということですね。
委員	前回のアンケートでは、保護者の回答率はどれくらいですか。
事務局	前回20年度のアンケート回答率は、児童94.8%、児童の保護者71.1%、生徒93.5%、生徒の保護者63.7%が前回のデータでございます。
座長	この件につきましてはよろしいでしょうか。
委員	7中学校での傾向はわかれましたか。
事務局	実は単純集計が出来たのがこの会議直前でして、とりあえず単純集計だけをあげた状態です。言われました地区ごとの分析ですとか、クロス集計的なものが今現在できておりません。他の項目でも委員の方からこのようなデータが欲しいという要望があれば、次回もしくは後日資料を郵送したいと思います。
委員	PTAの方にお聞きしたいのですが、PTAで感じておられる学校間格差があれば教えていただけますか。積極的に給食をしたい学校などがありますか。

委員	傍聴の方がたくさん来ていただいていますし、関心度が高いなと思っていましたが、保護者の回答率がこの程度のものなのかというのが正直ショックです。8割弱の方が回答して、データというのはこんなものかもしれませんが、もう少し関心が高いと思っていました。いろんなアンケートをとってきましたが、今の時代ですからもう少し期待感があってもよかったなと感じています。
委員	関心が低い保護者の中でも一番関心があるのは給食費滞納の問題だと思います。小学校でもかなり問題があって教育委員会さんが一番のご苦労されている問題かと思いますが、今後中学校給食費の有効な方法はありますか。
事務局	傾向といたしまして、小学校よりも中学校の方が滞納率は高くなるのは、歴然とした事実であります。今回、給食費の問題が入ってくると、かなりの滞納が出てくるだろうと思いますが、直接的な有効な手立てはなかなか実は見当たらない。本市だけではなく各市とも、給食を実施している市は給食費を公金化するという形で、市の方から督促をする状態になっていますが、実は公金化した方が滞納率は高くなっています。つまり、先生からの「払ってください。」という頻繁な催促の方が、先生の負担がとて大きくなってしまいますが、「先生に言われたら仕方ない。」という部分と、市の方から「払ってください。」ということであれば、市の方が滞納は多くなっているという実態が見え隠れしている状況です。 根本的に給食費滞納の問題は、他の徴収金と共に具体的に研究をしなければならない課題であります。ただ、有効な手立てがあるのかとなると、なかなか難しいのが現状です。
座長	今後新たな問題についても、意見を交わしていきたいと思います。他にご意見はありませんか。
委員	回答率は減少しているとのことですが、前にアンケートをとっても結局給食にならなかったということで、今回の回答率が低かったのではないのでしょうか。
委員	給食とは関係ないかもしれませんが、このアンケートを見ていて、お母さんやお父さんは子どものことを思っているとわかりました。子どもは子どもで保護者へ気を遣っている、手間や時間がかかるのが悪いなという気持ちが伝わってきて、見ていて親子の愛を感じました。
座長	親は子どものことを、子はそれとなく親を思っている現状が見えてくるグラフですね。それでは続きまして、会議内容(3)「その他」について、事務局よりお願いします。
事務局	～説明、映像～(西宮市立中学校給食視察)
座長	事務局から西宮市立中学校の自校方式の映像とともに説明がございましたが、これに関して何か質問はございますか。
委員	小学校と比べてどんな感じですか。
委員	給食当番準備中に児童を廊下に出させることはしていません。小学生の方がスムーズです。

委員	事務局の説明にもありましたが、川西市では1階まで取りに行くことはないです。牛乳以外は平行移動だけで動けるので、取りに行く時の混雑もありません。待つ子も教室で待ちます。体の大きさが違うと随分印象が違うと感じました。
座長	中学校の現場からはどうですか。
委員	見ていて疲れました。冗談ではなく、担任の先生がノウハウをしっかりと知らない、自分の昼食も食べられないのではないかと。仕事とはいえ、きちっとしていかないとだめですね。また、昼休みが飛んでしまいますね。中学生には授業の間に中休みがないですし、給食になると昼休みがなくなってしまう。これも子ども達にとっては大事な問題です。
委員	小学校の場合は各階に配膳室があります。階段を通るといのは混雑やいろいろな問題があると思います。昼休みがどうなるのか。子どもは小学校で経験していますのでスムーズに出来るかなと思いますが、中学校の先生は初めてなので、最初の対応が重要になってくると思います。
委員	映像を見ていると、教室の規模や机が大きくて配膳の手間等、米飯の場合、パンに比べて所要する時間が長くなるなど、細かいことですが関係すると思います。また、アレルギーのアナフィラキシーショックの子は小学校からもちろん引き継ぎがあるわけですが、保護者と担任合わさってその子を見ていかなければならない。牛乳が一滴でもかかっただけで発症してしまう子は現実にはいます。例えば、大きな学校の場合、教室の配置や座席等を十分に配慮してあげないと、大変なことになってしまうということも考えてほしいと思います。
座長	先ほど事務局で話がありましたように、中学校では小学校と同じように教室で食べることを考えていますが、食堂形式は一切考えていないのでしょうか。自校方式を将来考えられているのであれば、ついでに食堂形式も考えた方が、生徒の為、先生の為にもなるのではないのでしょうか。
事務局	望むならそういう方式も十分有りうるのですが、現実的に申しますと例えば、緑台中学校の場合は給食室を設けるスペースはすでにありません。給食室を作るとなると、1面しかないテニスコートを潰さなければなりません。グラウンドへテニスコートを移動させると、野球部かサッカー部どちらかを廃部にしないとイケません。このような物理的な問題を抱えている学校があります。また、川西中学校の場合は段々になっています。この段々になっている校舎配置の中で水平移動だけで済むような、給食室から配膳場所までのルートを確保できるかという、全ての階で作るのは難しい。一か所に集中した校舎や段々になった渡りの校舎の改善というのでも出てきます。その中でどのようにスムーズに行くかという整備を考えていかなければ、子ども達の負担ばかりが増えてくることになります。そのあたりは大人の知恵の使いどころになってくると思います。
座長	ありがとうございました。現状で可能なところというような説明がございました。他に現実を見て、このような考慮が必要等の意見はございませんか。
委員	中学校の先生が言われていたのですが、昼休みがとれないとなると、コミュニケーションがとれる

	<p>ようなカリキュラムを授業の中で考えないといけないのではないかと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。他にございませんか。では、意見がありましたら後日事務局へ報告をいただければ良いと思います。事務局よりその他ございますか。</p>
事務局	<p>～次回日程(1月)、試食会(12月)の案内～</p>
座長	<p>今日の案件につきましてはすべてこれで終わりました。それでは、本日はこれもちまして閉会といたします。ありがとうございました。</p>
	<p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>